



2009～10 年度  
国際ロータリー会長

ジョン・ケニー

# Weekly Report Niigata



2009～10 年度  
新潟ロータリー会長

小林 敬直



新潟 RC 9月第3例会 (2009.9.15) No.2817

## (1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

### (2) 小林 敬直会長挨拶

九月の第三月曜日は、「敬老の日」です。  
この「敬老の日」の由来は諸説あり、ひとつ目は聖徳太子が九月十五日大阪に四天王寺を建てたとき四天王の名前に合せて、敬田院、非田院、施薬院、療病院の四箇院を設立しました。このうちの非田院(ひでんいん)が老人ホームのような場所でした。  
また、元正天皇が七一七年に「万病を癒す薬の滝」といわれた岐阜県の養老の滝へ行幸し、「醴泉は、美泉なり。以て老を養うべし。蓋し水の精なればなり。天下に大赦して、靈龜三年を改め、養老元年と為すべし」と告げて、年号を「養老」に改元した故事にちなんだ、という説があります。  
かつて日本には「人生五十年」という言い方がありました。  
室町時代の謡いである幸若舞の「敦盛」の次の一節からきているといわれています。「人間五十年、下天のうちにくらぶれば、夢まぼろしの如くなり……」下天とは、仏教による宇宙観で天上界の中の最も低いところにある天をいう。その下天の一日は人間界の五十年にあたります。つまり人の一生——五十年は下天の一日にしかすぎず、人生とはいかにはかないかということを指しています。  
織田信長は、この謡を好んで歌い、舞ったとされるが、その信長もわずか四十八歳にして本能寺の変で死にました。  
五十歳まで生きられれば上出来という考えで、それを過ぎるとさまざまな形でお祝いされました。  
平安時代には「五八の賀」と呼ばれる長寿の祝いが40歳でおこなわれ、その後十年ごとにお祝いをたてました。室町時代になると「五八の賀」を祝う習慣は薄れ、61歳の「還暦」77歳の「喜寿」88歳の「米寿」のお祝いが一般的となって、時代を経て定着してきました。  
いずれも「お年寄りを大切にすること」につながります。現在では還暦祝いは定年退職の年齢に相当し、まだまだ若く第二の人生のスタート地点です。それまでの人生の慰労とこれからの人生を祝福するお祝いになりたいものです。

## (3) 委員会報告

・柳瀬泰晴親睦副委員長

①10月20日月見例会を開催致します。  
17:30登録 17:45例会 18:00開宴  
大橋屋 会費 御一人10000円(ご家族も同額)

②10月31日 秋のチャリティーゴルフコンペを開催します。  
9:30 紫雲ゴルフクラブ 飯豊コーススタート  
不参加の方でも提供品のご協力を宜しくお願いします。

・竹石 松次会員増強委員長

9月8日の第一例会で配布致しました会員増強のアンケートを9月末日までに事務局へ提出をお願い致します。推薦いただきましたら、理事会にはかり正式決定します。ご協力を宜しくお願い致します。

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>

**(4) 幹事報告（石井 和弘幹事）**

- ・10月18日に開催されます地区大会登録料につきましては下期年会費に上乗せいたします。
- ・8月29日に開催されましたIM会場にロータリーマーク入りのネクタイピンを落とされた方がいましたら事務局へお申し出下さい。
- ・今年度よりポールハリスフェローメダルをご希望の方は有料で15ドルとなります。

**(5) 会員スピーチ**

**「新潟デスティネーションキャンペーン  
の成功に向けて」**

**東日本旅客鉄道㈱新潟支社**

**支社長 高木 言芳 君**

**新潟RC創立70周年記念事業**

**「天地人バスツアー」 9月12日(土)**

**雲洞庵 堀の内やな場 参加者26名**